

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 環境安全課  
担当課長名：増田 博行

事業名：地域高規格道路 名古屋瀬戸道路 一般県道 日進瀬戸線	事業区分：地方道	事業主体：愛知県
起終点：自：愛知県日進市本郷町 至：愛知県長久手市大字岩作	延長：	4.0km
事業概要： <p>一般県道日進瀬戸線は、名古屋市と名古屋東部諸都市を結び、名古屋環状2号線、東名高速道路と一体となって名古屋圏の自動車専用道路網を形成する道路で、地域高規格道路名古屋瀬戸道路の一部区間となっている。</p> <p>本路線は、東名高速道路との接続により広域的な活動、交流を可能とし、人口が増加傾向にある名古屋東部地域の地域整備を支援し、地域の活性化に寄与する道路であり、また、主要地方道力石名古屋線などの渋滞緩和などを目的として整備するものである。</p>		
H11年度事業化	H10年度都市計画決定	H11年度用地着手
H11年度工事着手		
全体事業費：約960億円	事業進捗率：65%	供用済延長：2.3km
計画交通量：20,800台/日		
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 1.4 (残事業) 4.2	総費用：(残事業)/(事業全体) 206/1,015億円 事業費：197/1,007億円 維持管理費：9/9億円
		総便益：(残事業)/(事業全体) 886/1,511億円 (走行時間短縮便益：830/1,449億円) (走行経費減少便益：54/59億円) (交通事故減少便益：2/3億円)
		基準年：平成25年
感度分析の結果： <p>(事業全体) 交通量：B/C=1.3~1.6(交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C=3.8~4.7(交通量 ±10%)                  事業費：B/C=1.4~1.5(事業費 ±10%) 事業費：B/C=3.9~4.7(事業費 ±10%)                  事業期間：B/C=1.2~1.7(事業期間±20%) 事業期間：B/C=3.7~4.6(事業期間±20%)</p>		
事業の効果等： <p>円滑なモビリティの確保（現道等の旅行速度の改善）、都市の再生（区画整理等の沿道まちづくりとの連携）、国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路の位置付け）、個性ある地域の形成（愛・地球博記念公園）、災害への備え（第一次緊急輸送道路）、地球環境の保全（CO2の排出削減）、生活環境の改善・保全（NO2・SPM排出量の削減）</p>		
関係する地方公共団体等の意見： <p>地元日進市より周辺道路の円滑な交通処理を図るため、早期整備促進の要望を受けている。</p>		
事業評価監視委員会の意見： <p>「事業継続」することは「妥当」である</p>		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等： <p>平成18年度末に沿線周辺では愛知万博の理念と成果を引き継ぐ「愛・地球博記念公園」が整備。                  平成23年度末に次世代モノづくりの基礎技術を創造・発信する「知の拠点」がオープン。</p>		
事業の進捗状況、残事業の内容等： <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体4kmのうち2.3kmを供用済み</li> <li>・事業進捗率は65%。用地進捗率は98%（平成24年度末）</li> </ul>		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等： <p>・残区間の日進IC～日進JCTまでの1.7kmについては、買収済み用地内での暫定整備（段階整備）を進めていく。</p>		
施設の構造や工法の変更等： <p>・発生土の現場内利用等によるコスト縮減に努めながら事業を推進する。</p>		
対応方針：事業継続		
対応方針決定の理由： <p>以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。</p>		

